

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標 (H27年度～29年度)

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。

※平成27年度には、遅刻総数を2,500件以下にし、それを維持する。(H25:3,198件 H26:3,506件)

イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率 (H25:42.8% H26:86.9%) を平成28年度までに90%以上に引きあげ維持する。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会の主体的な活動を積極的に支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率 (H25:68.5% H26:73.2%) を平成29年度には80%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率 (H25:84.2% H26:83.8%) をH29年度までに90%以上にする。

イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、学校見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。

※部活動の加入率 (H25:54% H26:49.2%) ならびに部活動に対する満足度 (H26:80%) を引きあげ、H29年度には加入率を60%以上、満足度を90%以上にする。

ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 (H25:56% H26:65.7%) を毎年引きあげ、平成29年度には80%以上にする。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ

ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、平成28年度には「吹田進路プログラム」を確実に定着させる。また、進路指導部と進学講習ブラッシュアップチーム (SBT) が中心となり、1年生から3年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。

※進学講習への参加生徒数 (H25:132人 H26:135人) を平成29年度には250人以上とする。

イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率 (H25:70% H26:76.8%) を毎年引きあげ、平成29年度には85%以上にする。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統的かつ綿密な分析等に基づき、「吹高 CAN-DO リスト」を全教科で策定するとともに、「分かる授業開発PT」(WJK) の取組みを踏まえたICTの活用促進などにより「わかる授業、魅力ある授業」をめざして、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会 (朝ガク)」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。

※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度 (満点4.0/H25平均:2.9 H26:3.0) を平成28年度には3.2以上に引きあげ、維持する。

イ 平成25年度に「学校経営推進費事業」を活用して整備したICT機器の効果的活用を進めるとともに、「進学講習ブラッシュアップチーム」(SBT) が中心となり、個別自習室・マルチルーム等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。

※2年次1月の基礎学力調査の結果 (H25:Cゾーン以上17.9% H26:25.7%) を段階的に引きあげ、平成29年度にはCゾーン以上の割合を45%、Bゾーン以上の割合を15%以上に引きあげる。

※平成29年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者50人以上をめざす。

(2) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な運営推進

ア 「魅力ある学校づくり」の一環として、平成23年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、PTを中心として、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など、生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。

※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度 (H25:94%、H26:100%) を90%以上で維持する。

イ 大学進学希望の高まりに応じて開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座ならびに土曜講習等を「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、PTを中心として円滑に運営する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。

※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値52.5以上の生徒数を、平成29年度には20人以上にする。

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議 (みかん会議) を充実させ、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。

イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率 (H25:平均64.1% H26:平均78.2%) を毎年引きあげ、平成29年度には平均85%以上にする。

同じく、生徒・保護者・教員の清掃に関する項目の肯定率を (H26:生徒43.2%、保護者63.8%、教員20.8%) を毎年引き上げ、平成29年には平均60%以上にする。

4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。

イ 首席を中心に、学務グループ (教務部・進路部)、生徒グループ (生徒指導部・生徒会部・保健部) が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。

ウ 校内研修 (ミニ研修) の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。

※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」に関する項目の肯定率 (H25:53.0% H26:60.4%) を毎年引きあげ、平成29年度には70%以上にする。

(2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。

ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。

(3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

ア 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時にPTA実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。

イ 吹田高校の教育活動全般について、地域・中学校等に効果的に情報発信する等、広報活動全般について組織的に推進していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ</p> <p>(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ</p> <p>(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の遅刻防止に対する意識を高め、遅刻数の減少をめざす。そのために、目標の明確化・指導内容の統一・居残り指導の工夫（7P指導）等を行う。 頭髪指導において、全学年で点検方法の統一化や指導経緯の確認できる『個人シート』の作成などをめざし、効率的にかつ生徒の理解を深める指導を展開する。 生徒の理解のみならず、保護者の理解をより深め、家庭と学校との連携により、正しい制服着用の徹底をめざす。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業マナーに関する教員の統一した指導・生徒への徹底した働きかけを通じて、授業マナー向上に取り組む。（机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF、等） 1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどにより、交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。 人権教育推進委員会（人推委）と生徒指導部が連携し、生徒が情報モラルに関する正しい認識を持てるよう講演会を実施する。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。 生徒同士の望ましい人間関係の作り方や自己肯定感を育成できる望ましい生徒指導の在り方について、教員がスキルアップできるよう研修を実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を図る。 いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度作成の「進路のてびき」を更に発展させ、3年間を見通した系統的な進路指導を行う。 各学年、「進路ガイダンス」を実施し、将来に向けて生徒が自発的に考え、行動するよう指導する。 就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対してよりきめ細かな指導を行う <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「進路検討会議」を定例化し、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に調査している年間遅刻件数を2500件以下。（H26：3506件） 年間の頭髪帰宅指導件数を30件以下（H26：17件） カッターチェックによる服装帰宅指導0件。スカート下ジャージにおいても強化指導時の預かり指導件数0件。 生徒向け学校教育自己診断の授業規律（マナー）に関する項目に対する肯定率75%以上（H26：68.4%） 生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率85%以上。（H26：81.7%） 講演後のモラルに関する理解、認識の向上についてのアンケート肯定率80%以上。 生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率85%以上（H26：83.8%） 教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率70%以上（H26：64.6%） クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率85%以上（H26：80%） 生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率75%以上（H26：73.8%） 全学年での人権HRの実施と生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目の肯定率70%以上。（H26：65.7%） 「進路のてびき」の改定および、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施。 「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに3回以上開催。 就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%。 「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は各学期に1回実施。 生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率80%以上。（H26：76.8%） 	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p> <p>(2) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な運営推進</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した「進学クラス CAN-DO リスト」を改訂し、内容の充実を図り、生徒への提示を行う。年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。 ・WJKによるICT機器を活用した取組みを進めるとともに、校内外での研究授業などを通して各教科の授業力の向上を図る。 ・学年主任を中心として、「朝ガク」のこれまでの成果を整理した上で、「基礎学力の定着」「学習環境の確立」という両視点で、3年間を見通したベースプランの策定を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SBT（進学講習ブラッシュアップチーム）が中心となり、平日放課後実施の進学講習の更なる充実を図るとともに個別自習室、マルチルーム、スタディールーム等を利用を推進し、自学自習する生徒への支援を充実させる。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や地域の機関との連携を更に深め、こども未来専門コースで展開される専門教科の授業の質をさらに向上させる。 ・平成26年度から実施した「保育実習」を更に充実発展させる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学クラスPTの役割と構成員を検討し、3学年がそろった形での進学クラスをより円滑に運営する。また、引き続き土曜講習を計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学クラス CAN-DO リストの改定および、生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目の満足度3.1以上 (H26:3.0) ・公開授業を年間1回以上、研究授業を5回以上実施 ・「朝ガク」ベースプランの策定および、生徒向け学校教育自己診断における朝ガクへの肯定率50%以上 (H26:45.8%) ・2年次1月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合 (H26:25.7%) を30%に引き上げる ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者 (H26:0人) 20人以上 ・こども未来専門コースの授業に対する満足度90%以上 (H26:100%) ・実習受け入れ園の事後アンケートで、取組みに対する肯定率100% (H26:100%) ・土曜日講習に対する満足度75%以上 (H26:69.9%) 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 心身ともに健康であり続ける力の育成</p>	<p>心身ともに健康であり続ける力を育てる</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・スクールカウンセラーと連携し、コミュニケーション力育成のための生徒むけ心理学講座を実施する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や生徒保健委員会、地域を巻き込んだ清掃活動を通して美化意識を向上させる。生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーンを年間10回実施する。 ・生徒と教職員による安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持すると共に、校内清掃を徹底させることで、校内美化の意識を向上させる。 ・関係各機関と連携し、防災教育や防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。また、生徒保健委員会の取り組みとして、校内放送等を利用した循環型防災学習を年間3回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室通信を年間5回以上発行 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒65%、保護者90%以上 (H26:生徒59.6%、保護者87.5%) ・年間10回の実施 ・生徒・教員向け学校教育自己診断での清掃に関する項目の肯定率がそれぞれ50%以上 (H26:生徒43.2%、教員20.8%) ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率80%以上 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化</p>	<p>(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり</p> <p>(2) ICT・情報ネットワークの活用</p> <p>(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実</p>	<p>ア・運営委員として学校全体の視点から議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを行う。</p> <p>イ・学務グループと生徒グループが、グループ長（首席）主導により、グループ内の相互協力体制を確立し、組織的校務運営の効率化を高める。</p> <p>ウ・職員会議の迅速化に対する意識のさらなる向上に努め、職員会議内での「ミニ校内研修」の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。</p> <p>ア 校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。</p> <p>ア・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民やPTA等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ・広報PT（仮称）を立ち上げ、学校の情報をよりトータルにとらえ、より効果的な広報活動の在り方を検討し、実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関する教員向け学校教育自己診断における校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率65%以上 (H26:60.4%) ・職員会議の時間短縮による「ミニ校内研修」の実施回数4回以上 ・保護者向け学校教育自己診断における広報に関する項目の肯定率80%以上 (H26:77.2%) ・学校HPの閲覧数前年度比10%増 	